

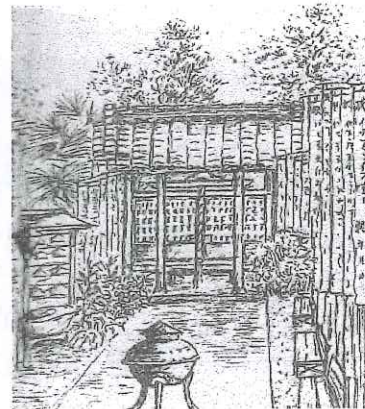
28、伊勢原の大宝寺

伊勢原はもと千手原（せんじゅはら）と
いった。その千手窪から掘り出された
身の丈1尺5寸（約45cm）の千手
観音が、大宝寺に安置されている。
この観音像は千手原にあった古寺が廃
寺となり、いつの時代か地下に埋没し
たのが掘り出されたのではないかと
いわれている。大宝寺は正保2年（16
45）に建立、千手山と号し、この付
近を今でも千津（千手のなまり）と呼ばれている。



29、伊勢原の火伏不動明王

伊勢原駅の北方200m位の所にお不動様
のお堂がある。このお堂には身の丈52cm
の木像（坐像）の不動明王が祀られている。
文化13年（1816）伊勢原に大火が起
り、全町に燃え広がったが、不思議にもこ
の不動堂の所で火は止まった。人びとはそ
れ以後「火伏不動様」と尊崇して今に至っ
ている。不動様の作者・年代は不明である。



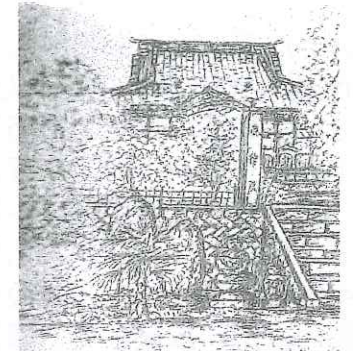
30、田中の十二柱神社

田中の鎮守である。天神7代、地神5代を祭神
とし、もと12天社といった時代もあったと
いう。仏教の12の護世の天（神の意）、即
ち、日天、月天、梵天、地天、帝釈天火天、
閻魔（えんま）天、羅刹天（らせつてん）、水
天、風天、毘沙門天、伊舎那天を祀ったもの
であろう。武門武将の信仰厚く、徳川時代公
儀により免田（2天面、御供免）を寄進され、
年々初穂米を献ぜられ武運長久を祈ったといわ
れている。



31、東大竹の自徳院

八幡台々地の登り坂中腹に、曹洞宗の自徳院が
あり、山号は千手山で、千手観音を本尊とし
ている。この台地の手前で、伊勢原村の地名
のもととなった千手ヶ原即ち千津（せんず）
や千手くぼの名があり、このくぼから千手観
音が掘り出されている。（大宝寺観音堂に安置）
東大竹の地名は相模の国御岳であった大山
を遥拝する場所であったといわれている。こ
の寺も、また、その地にふさわしい所である。



32、八幡台一丁目の八幡台遺跡

昭和八年、発掘調査が行われ、国の史跡
指定となる。この台地は、大山、丹沢、
箱根を望む景勝の地で、先人の住居と
して最適地と考えられる。
地下50cm位の所に、東西3.4m
南北6mの楕円形で、敷石に根府川石
を使い、その間に七沢石、日向石等が
使われた住居跡をいくつか発見する。
縄文中期から後期の土器片、焼石、石
器が出土している。戦中の食糧増産で
覆土し、現在の案内板がその様子を伝えている。



33、東大竹の八幡神社

この神社は、隣の縄文時代の住居跡から
みて、この地に早くから人が住みつき、
心のよりどころを求めて、いつの時代
か生産の神として神社を建て祀り、農
民が信仰したと思われる。本殿からみ
て右手に鐘楼があり、無銘の古鐘があ
った。形や手法から江戸時代以前の物
で、源頼朝が寄進したともいわれてい
た。戦時中供出し、現在の銅鐘は昭和
46年3月に、氏子が奉納したものである。



34、東大竹の光明院

この寺は真言宗であり、この宗派は大同元年（806年）帰朝した弘法大師によって広められたものである。この寺の本尊は不動明王で、本尊と二童子像はいつのころか大山寺の本尊を移したと伝えられているが、大山寺のものとよく似ている。大山寺は良弁大僧正が開創し、何年か過ぎて、真言宗となる。



35、岡崎の無量寺＝岡崎城跡

源頼朝の功臣・三浦義明の弟、岡崎四郎義実が築城。頼朝が伊豆で旗上げしたのが1180年であるが、今から約800年前のことである。その後、三浦一族の本拠が、岡崎城であったが、1512年、北条早雲の猛攻で落城し、廃城となる。この城は馬渡、大句、西海地などの集落にまたがる平山城で、標高35mの所が本丸で、その後、無量寺が建てられている。



36、大句（岡崎）芳円寺の大地蔵

平塚市に近い大句の小丘に芳円寺という曹洞宗の小さな禅寺がある。この本堂の庭には、丈六の石の大地蔵がある。享保2年（1717）信州高遠の石工・北原四方之丞らによって刻まれたものである。恐らく石地蔵では市内で最も大きいものと思われる。四方之丞の作品は、この他坪ノ内の養国院の多宝塔など、市内にいくつかある。

（2020年9月には移設されていた）



37、大句の乙女地蔵

大句に五反田（約50畝）という水田があり、そのほとりに、石のお地蔵さんがある。伝説によると、昔地主の家に若い娘のお手伝いさんがいて、地主の息子が嫁にしたいと思うようになり、親族会議の結果、一日に五反の田植えができれば嫁にしてよいということになった。娘はこの難題を果たそうと、懸命に働いたが夕暮れとなり、天に祈り日没をのばしてもらい、遂に、やりとげ、畦に這い上がったとたん、息を引き取る。人々はこの娘の死を悼んで、地蔵さんを建て供養したという。



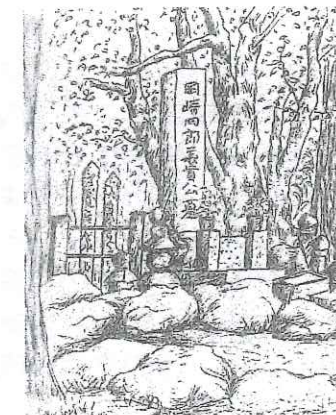
38、桜台の三福寺と子（ね）の神社

桜台の二丁目、三福寺門前に徳本念仏（江戸末期、浄土宗の有徳の僧・徳本が広めた念仏）の塔がある。その塔のそばに、子（ね）の神社が祀ってある。祭神は子の権現で、子の権現は足腰の痛病を治す神であるとの信仰から、祈願が叶った時は草鞋を奉納した。その風習がいまだに残されていて、ほこらの扉に草鞋がかかっている。三福寺本尊阿弥陀仏は信州善光寺48体中の一体で、1560年に信助という僧が奉納してきたといわれる。



39、岡崎の岡崎四郎義実之墓

岡崎城跡の西方、約1km、野道を行くと、ひとむらの杉木立があり、そのなかに、岡崎義実と、その嫡子・真田余一の乳母、吾孀の墓がある。義実がわが子・余一に仕えた忠実な乳母吾孀を手厚く葬ったそのところへ、義実を葬ったと言い伝えられている。（真田余一は頼朝の先陣に立って、石橋山で平氏と戦い、戦死する）



40、桜台の大山道標

県道伊勢原藤沢線が沼目から原之宿に入る道端に、元文4年（1739）と書かれた道標がある。江戸時代の大山詣りの名残りで、当時大山40本もの大山道が開かれていたという。近くの原之宿にはその名の通り、旅人の疲れをいやした茶店や宿屋があったという。現在、原之宿は町名を変更して桜台という。



41、沼目の八坂神社

この神社のもととは京都の八坂神社（祇園さん）

で、この地域の人々は天王さんと呼び、疫病よけ、病虫害よけ、水神として信仰した。神体の木像は行基の作との伝説があり、また、徳川家康は天正19年（1591）に7石を寄進している。境内には数本の黒松の大木があったが、戦中の油不足で一本を残して切られ、その一本は市の天然記念物天王松（目どおり5.5m、高さ25m）と呼ばれてきたが、10年程前に枯死する。



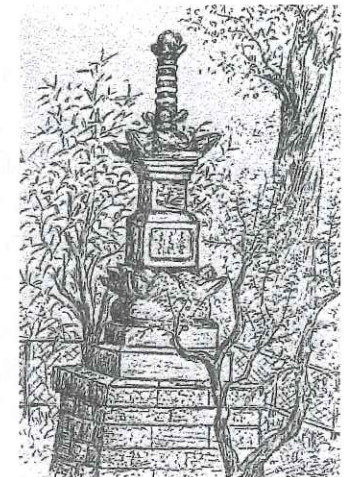
42、沼目、天王さんの鐘

この鐘は別記八坂神社にあり、室町幕府四代将軍義持のころ、応永10年（1403）の古鐘である。鐘の銘文の終わりに「応永第十癸未小春日、大工和泉権守恒光・・・」という文字がある。恒光は海老名の有鹿神社の銅鐘を造った経光と同一人物であろうといわれている。鐘の文字は肉太横広でがっちりした美しさがあり、鐘肌は全面的に荒らされているが、音は鋭い感じで、薬師の鐘より60年程おくれて造られた。



43、上平間、三観寺の宝篋印塔

三観寺は黄檗宗で、今市内にはこの宗派の寺は、ここのみである。本堂前には高さ2.8mの石造宝篋印塔があり、宝暦13年（1763）に建立され、大変美しい姿をしている。宝篋とは大切なものを入れる箱のことで、もとは宝篋印陀羅尼の経文を納めたがその後、供養塔、墓碑として建てられるようになった。もと三ノ宮浄業寺がこの宗派であったが、明治41年に廃寺となり、今は遺跡を残すのみである。



44、上平間の東円寺と舟つなぎ松

東円寺の開山は鎌倉建長寺十六世光一禅師（1374年没）で、本尊の地藏尊は当国第一の札所となっている。門前の右側には舟つなぎ松と呼ばれる大きな松があった。昭和34年9月の台風で倒れ、今は根株が僅かに残っている。昔はこのあたりまで湿地帯で、平塚の城島（浮島）との間を船が往来していたという。この所を「こがの渡し」ともいう。



45、上平間の稻荷社

この稻荷社は、もとの地に住む豪族（奈良時代）が、水田を見下す丘に塚をつくり勧進したと思われる。現在上平間集落の裏台地が小字稲葉山である。現在地に移されたのは、はっきりしないが、代官宇都宮氏の神額があることから、そのころ集落の中に移されたと思われる。稻荷社は田の神を祀ったもので、狐と間違えてはならない。

